

P3-42.**eポートフォリオを用いた臨床実習日誌の指導にあたる教員の変化について**

(医学教育学分野)

○油川ひとみ、三苫 博

(産科婦人科学分野)

野平 知良

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野)

清水 顕

(精神医学分野)

市来 真彦

(腎臓内科学分野)

長岡 由女

(血液内科学分野)

赤羽 大悟

(医療の質・安全管理学分野)

三島 史朗

(臨床検査医学分野)

天野 景裕

(糖尿病代謝内分泌リウマチ膠原病内科学分野)

太原恒一郎

(その他)

中神 義弘、青木 昭子

ブルーヘルマンスラウル、山科 章

【背景】 2017年度の臨床実習より全診療科統一でeポートフォリオの日誌の指導を行うことになった。eポートフォリオを用いた指導は、学生が日々の省察を行い、教員が「足場かけ」としてのコメントを行うことで、生涯学習の礎となるコンピテンシーの育成を目標としている。指導教員がそれぞれの目と手法で学生の教育にあたり、それを他の指導教員が参考にすることができる。教員によっては、指導教員の成長にもeポートフォリオは役立つと考えるむきもある。そこで、2017年度と2018年度のコメントの状況を調べ、eポートフォリオが指導教員の成長に役に立つのかを調査した。

【方法】 2017年度と2018年度のeポートフォリオの日誌への指導状況の比較を行い、かつ、学生のeポートフォリオに対する感想のアンケートより診療科毎にこの2年間の評価の違いを調査した。

【結果】 日誌にコメントを行った教員は2017年度93名、2018年度61名と2017年度の方が多かった。

しかし、コメントを定期的に行っている教員の数は大きな違いが見られなかった。人事異動等の関係もあり、2017年度と2018年度で共通してコメントを書いている教員は46名であった。その教員が全体のコメント数の2017年度は89%を、2018年度は95%を占めた。学生のアンケート「主体的な学びができたか」「何を優先して学習すべきか考えられた」「なりたい医師像について考えられた」などの項目全てで、ほぼ全科で評価が上がった。2年目の方が学生の満足度およびコンピテンシー育成に関する評価が上がっていることが分かり、教員の指導力の上昇あるいは教員の指導者としての成長の可能性が見られた。

【考察】 eポートフォリオは新しいツールであるが、一人一人の学生に向き合って指導する昔ながらの指導方法である。学生を指導することは、その学生のみならず自分自身への省察を伴う作業であり、指導教員自身がその特性に合わせた指導方法を身につけて成長する可能性を有するものだと考えられた。